

活用方針

VLP取組概要 日 適

■ VLP活用のねらい

- (1) 学校、適応指導教室、フリースクール等への参加が断続的になっている児童・生徒に対して、仮想空間を活用した居場所と学習の機会を確保する。
- (2) VLP上での学習支援をとおして、自律した学習者を育成し、生涯にわたって学ぼうとする力を高め、不登校児童・生徒の社会的自立に生かす。

■ 対象生徒・児童

- (1) 不登校が長期化している児童・生徒で、サポートルーム、教育支援センター、フリースクール等に通うことができない児童・生徒
- (2) 不登校が長期化している児童・生徒でサポートルーム、適応指導教室、フリースクール等のいずれかに通うことはできているが、学校とのつながりを増やしたい児童・生徒

■ 運営時間

◇月曜日から金曜日の午前9時から午後5時

■ 活用方法

- (1) 学級担任や、支援員とのコミュニケーション
- (2) スクールソーシャルワーカーとの関わり
- (3) VLP内に作成した府中市に関する学習コンテンツの学習
- (4) 教科書に対応した自学自習用Web教材である「デキタス」やプログラミング教材の「みんなでプログラミング」を使用している学習

活動・取組み内容

活動・取り組み内容

1 令和7年4月

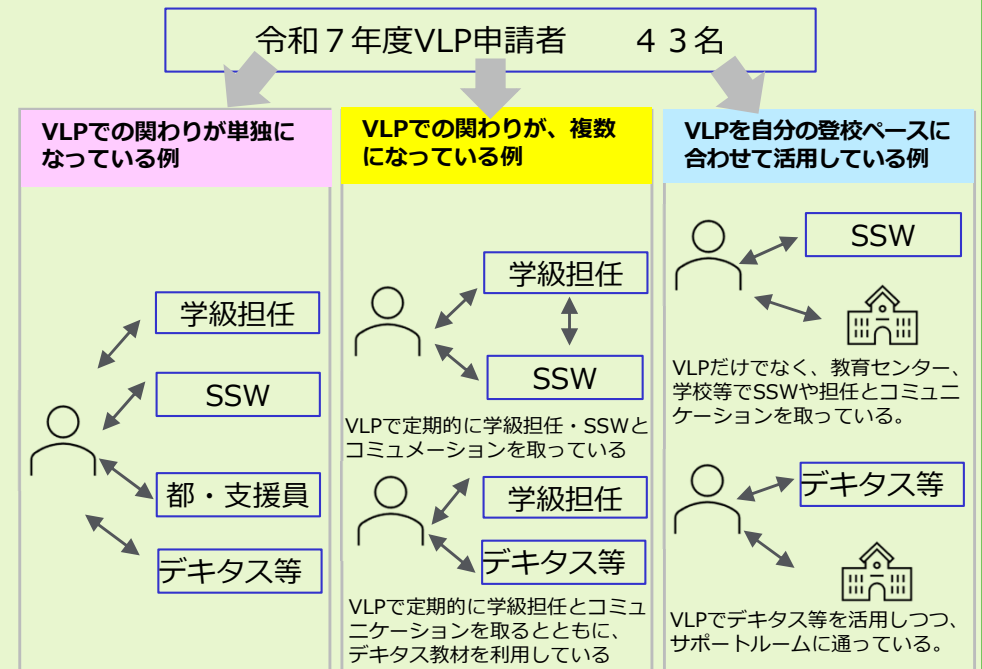
◇ 校長会で実践報告及び令和7年度新規申請についての依頼
令和6年度より、継続している児童・生徒については、継続して利用開始

2 令和7年5月

◇ 新規申請者募集、決定

3 令和7年6月

◇ 令和7年度新規申請者利用開始



成果/好影響・次年度以降の方針・利用者の声

成果/好影響

- ✓ 令和7年度当初は、ほとんどの申請者が、「VLPでの関わりが単独になっている」に留まっていたが、VLPでの定期的な関わりを通して、「VLPを自分の登校ペースに合わせて活用する」生徒が複数見られた。
- ✓ 他部署と連携し、市内の名所の一部を巡る「リアルお散歩ツアー」を実施することができた。
- ✓ スクールソーシャルワーカーの支援の一環として、極めて本ツールが有効な手立てであることが検証できた。

次年度以降の方針

- ✓ 利用開始までの流れは令和8年度と同様にする。
- ✓ 本市の教育・社会資源を生かし、申請した生徒が「やってみたい」と思うリアルイベントを企画する。
- ✓ 令和8年度における成果を「実践事例」として整理し、校長会などの場で広く共有する。
- ✓ 教員向けの操作説明会を実施し、本取り組みへの理解・啓発を図る。

利用者の声



- 謎解きクイズツアーはとても楽しかったです。こまいぬの数を数えるのは少し難しかったです。またやってみてほしいと思いました。
- VLP内での先生の言葉やキャラクターが面白かったです。だから、実際にVLPの外で先生に会う時のイメージがつかえました。



- 自宅から出ることが少なく学校にも全く登校することができない生徒であったが、SSWの方と月に1回の頻度でVLPを通して連絡を取り合い、それがきっかけで学校近くまで登校できるようになった。徐々に学校に行けるようになり、3年生になると数回であるが校内に入り担任と話すことができた。
- VLP内のアバターを通しての担任との会話が生徒の心理的負担を減らし、それが登校するイメージにつながったと感じている。